stories

広報かわねほんちょう

開演前、ロビーには長蛇の列が

楽しいトークに笑顔がこぼれる

ホールはすぐに満席に

2009
3
No,41

「僕は小さいころ、風が見えるようになりたかったんです」。

川根本町・中部電力㈱共催による「石原良純氏講演会・演題：空を見よう」は２月８日、文化会館ホールで開かれ、大勢の来場者が詰めかけた。石原氏は、自身の幼少時代の思い出や、気象予報士になろうと思ったきっかけ、環境問題について思うことなど、ところどころに笑いをちりばめて話した。１時間30分にわたって繰り広げられた講演は午後３時過ぎに終了。会場には終始、たくさんの笑顔と笑い声があふれていた。

後世に残したい大井川の姿

大井川。南アルプスの南麓の山々に降り注いだ雨水は、やがて大きな流れとなり167キロの道のりを旅して駿河湾へと注いでいく。本町の中央を流れるこの大井川の水は、飲料水に、農業用水に、工業用水に、電力にと幅広く利用され、わたしたちの日々の暮らしを支えている。本町だけではなく、恩恵を受ける流域の住民すべての「命の源」だ。

大井川の清流を守る研究協議会が主催する「大井川流域シンポジウム」は１月25日、島田市金谷の夢づくり会館で開催された。流域から180人もの参加者が集い、大井川に対する意識を共有した。本号では、パネルディスカッションで交わされた討論などを中心に、「後世に残したい大井川」について考えてみる。「夢」づくり会館で、どんな「夢」が語られたのだろうか。

CAST：
1 *Kuroda Junnosuke*
2 *Kume Isamu*
3 *Ozawa Setsuko*
4 *Suzaki Touko*
5 *Yamada Tatsumi*

子どもたちのすこやかな成長を願い続け教育一筋に歩んだ人生今、静かに眠りにつく―

澤村迪男（みちお）

川根本町教育委員会教育長　享年66歳

澤村迪男町教育委員会教育長。２月６日午前５時47分、浜松市内の病院で死去。66歳。

昭和40年４月に教職に就き、本川根町立奥泉小学校、北小学校、他町の小学校などで教鞭をふるう。平成12から15年までの３年間は、中川根第一小学校校長として子どもたちの成長を見守る。平成15年４月２日、旧中川根町の教育委員会教育長に就任。教職時代に培ったノウハウを生かし、合併後の現在まで教育行政を推進してきた。

実直でおだやかな性格。子どもの人権を第一に考え、子どものためにならないことには、厳然（きぜん）と立ち向かう力強さも併せ持っていた。

子どもたちが、伸び伸びと学校生活を送るためには何が必要か、常に考え続けた。子どもたちが元気に成長していく姿を、わが子が成長するかのように喜んでいた。

この町の子どもたちを愛し、温かい目で見守り続けた。教育一筋に歩んだ人生。今、静かに眠りにつく。

ご冥福をお祈りします。

広報かわねほんちょう平成21年１月号の表紙を飾った写真。本川根小学校の子どもたちと共に、楽しそうにカメラを見つめる澤村迪男教育長の笑顔があった。子どもたちと一緒だったからこそ、この笑顔が引き出せたのだろう。

母なる川の 過去に学び 今を見つめ 未来を創造 共に考える

黒田淳之助さん

くろだ　じゅんのすけ

大井川右岸土地改良区理事長

平成元年から17年までの17年間、旧小笠町長を務める。県町村会会長、県農業構造改善協会会長などを歴任。平成10年に大井川右岸土地改良区理事長に就任、用排水施設の整備・管理や農地整備にリーダーシップを発揮する。

久米勇さん

くめ　いさむ

吉田町漁業協同組合代表理事組合長

昭和37年からしらす船曳き網漁業を営み、昭和58年から漁業組合の役職を歴任。平成10年には県漁業指導士に認定される。平成13年に吉田町漁業協同組合代表理事組合長就任。ほか多数の役職に就く。

小澤節子さん

おざわ　せつこ

白羽山はばたきの森に集う会会長

川根本町上長尾在住。モアラブ川根の会で数々の地域おこし活動を実践。その後、大井川を再生する会役員などを歴任。近年では白羽山での植林や育林に取り組み、里山の保全活動に尽力。「中川根ふるさと通信」の発行者。

洲崎燈子さん

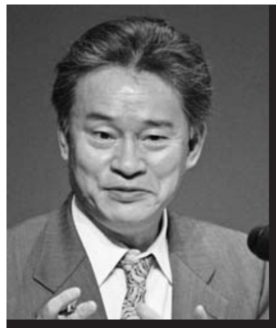
すざき　とうこ

豊田市矢作川研究所主任研究員

早稲田大学大学院人間科学研究科で修士課程卒業後、理工学研究科で物理学および応用物理学を学ぶ。その後、豊田市矢作川研究所に入所。矢作川流域の河畔植生や里山の現状、望ましい管理手法など調査研究に従事する。

『「大井川」とは、大きな井戸の川という意味。くんでもくんでも水が尽きない水がめ、という素晴らしい名前の川です。大井川の水は、流域周辺の人々に大きな恵みを与えていますが、今大井川に親しむ人の数は、むしろ減ってきているように見えます…」と、山田辰実コーディネーターの発言で始まったパネルディスカッション。大井川の未来を創造するために、何を考える必要があるのか。討論の模様を振り返る。

●コーディネーター



山田辰実　やまだ　たつみ

富士常葉大学環境防災学部教授

瀬戸川フォーラム代表、めだか倶楽部静岡代表。フィールドでの環境教育を実践している。NPO法人「里の楽校」理事長。

山田　まずは久米さん、漁業に関する面白い言葉に、「シラスは山で生まれる」という言葉がありますね。これはどういった意味なんでしょうか。

久米　シラスの餌であるプランクトンは、山から川へ、川から海へと流れ出た泥と海水が混ざったところに発生します。そのプランクトンを食べて育つシラスは、大きな意味で「山で生まれる」ということなんですね。

山田　シラスが生まれるのは、実は大井川の源流なんだと。源流の森がはぐくんだミネラルこそが、シラスの栄養分になるんですね。大井川流域の人々が、そういった広い視野で、川の事を考えられたら素晴らしいですね。

黒田　わたしたちの生活は、すべての面で大井川の恩恵を受けています。わたしが旧小笠町で町長を務めていたころ、議員や町民からよく聞かれたのが「大井川の水利用と水路橋」についてでした。右岸は昔から大井川を頼りにしてきましたので、もし水路橋が倒壊したら水はどうなってしまうのか、非常に大きな心配事だったわけです。生きるか死ぬかを左右する大切な水ですから、流域すべての人が感謝の心を第一に、水利用について考える必要があります。まずは地域の人に、水の大切さを知ってほしい。このため勉強会や施設見学会を開き、情報公開を進めています。

山田　大井川の水のありがたみというのは地域全般に根付いていますか?

黒田　受益者は当然感謝しています。しかし一般的には、「蛇口をひねれば水が出て当然」という意識が強いと思います。

小澤　今の大井川の姿を見ると、本当に悲しい気持ちになります。少しでも表流水を増やしてほしいと願っていますが、水利用という面もありますから、簡単には解決できない問題です。昔の大井川は、地域の人にとって身近な存在でした。「流したい」や「御霊おくり」など、地域に根付いた文化もたくさんありました。これらは、水の神様へのお礼や感謝の気持ちを表しているんです。そういった行事は、今では一部の地域で残っているだけです。消えてほしくない大切な文化です。

山田　流域の人々が、代々受け継いできた誇りある川の文化。消えてほしくないですね。豊田市の矢作川では、住民が主体となった河川環境保全が盛んです。そこで実施されている活動や取り組む姿勢というのは、大井川流域でも参考になるのではないでしょうか。

洲崎　豊田市矢作川研究所は、自然と人のかかわりという面を研究しています。矢作川では、昔から川の恵みを受けながら生活する人がたくさんいました。地元漁協も、河川環境を守ることを第一に取り組みを進めています。現在、川の価値というものは、ともすれば忘れがちです。しかし、本当はなくてはならないものなんだと、研究所の活動を通して伝えていきたいと思っています。

山田　川にすむ「淡水魚の王様」といわれるアユ。太陽の降り注ぐ季節には、1日でぐっと成長します。しかし現在、大井川のアユに元気がなく、数も減ってしまいました。わたしたちは、何とか大井川を元気にしたい、たくさんの生き物でにぎやかにしたいと思い、調査に出向いています。しかし、なかなか回復の兆しは見えません。川の姿も、ずいぶん変わってしまったようですね。

小澤　大小さまざまなダムができ、上流側に土砂が堆積しています。下流部は逆に河床の浸食が見られ、海岸線にも影響が及んでいます。この傾向は、ここ50年で進んだと思われます。

山田　ダム湖特有の川の笹濁り（白っぽい濁り）というのも気になりますよね。

小澤　上流の畑薙ダムから濁りが始まります。その井川ダムまでに濁りが強くなり、そのまま導水管へと入ります。表流水は川の浄化作用によって濁りが取れますが、導水管に入った水は濁ったまま。その濁り水が下流域で飲料水として使われているんですよね。これはとても残念なことです。もっときれいでパワーのある水を供給してあげたい。取水口を一本にするなど、方法はいろいろ考えられると思います。

山田　もう少し効率よく上手に取水すればということですね。近年では濁水対策の協議なども進んでいると聞きますから、その進ちょくにも期待したいですね。ところで矢作川では、川の水を生み出す「森林」の調査なども盛んに実施されています。安定した水を供給するためには、山が果たす役割が大きいということですね。大井川流域ではどうでしょう。下流域の人たちが森づくりに参加するといった動きはないですよね。

久米　当然、考えていかなければならないと思っています。行政を通じて一緒になってやっていけたらと思います。

洲崎　矢作川では、名古屋市の市民団体が森林ボランティア推進協議会をつくり、山仕事の手伝いをしています。ボランティアの人に「森の応援団」として山に入ってもらう。都市部の人は、自分たちが普段飲んでいる「水」の源を知ることになり、山主は山の管理ができる。双方に良い結果を生んだのではないかと思います。

山田　矢作川の活動は、河川再生の一つのモデルケースです。しかし何より大切なのは、まず流域の人々が自ら考え、行動を起こすことです。自分の問題として、森や川を考える姿勢が必要なんです。そういう気持ちの高まりがほしい。大井川でも、問題点を調査したり、恩恵を分かりやすく伝えたりするような「活動母体」を持つべき時代が来ていると思います。流域圏の人々が、まずは一つのテーブルにつくことです。

矢作川研究所洲崎燈子主任研究員が語る「矢作川再生」への道のり

住民主体の矢作川環境保全

愛知県の矢作川流域では、住民が主体となって取り組む環境保全活動が盛んだ。流域全体が一つとなり、都市住民をも巻き込んだこの活動は、現在も広がり続ける。豊田市矢作川研究所洲崎燈子主任研究員が語る矢作川再生への道のり。大井川流域環境保全のヒントとなるか。

矢作川方式の成り立ち

矢作川の環境を守る住民活動の歴史は古く、明治時代にさかのぼります。当時、過度の伐採で山林が荒廃し、洪水や濁水、土砂崩れなどが流域で多発しました。このため農業用水団体が、上流部の水源林の造成を実施。農業の団体が水源林をつくるという、珍しい環境保全活動でした。

非常に多くの運動が展開され始めたのが1960年代。高度成長期、矢作川はとても汚れてしまいました。流域の山砂利の採取、源流部の宅地・ゴルフ場の開発が無法的にされたのが原因です。当時の川を知る人は「川の水がみそ汁のようだった」と話しています。水田は不栄養化。河口域では、ノリやアサリの養殖が大打撃を受けました。このため1966年、農業・漁業関係の団体、自治体など18団体が矢作川沿岸水質保全対策協議会（以下矢水協）を設立。

1970年代に入り、水質汚濁防止法が制定されたことを受け、矢水協が全国第1号となる告発をしました。また「自分たちで水を守ろう」という意識が芽生え、流域のパトロールを開始しました。違法に排水を流している工場の監視や、抗議活動を地道に続けていきました。

やがて、この流域で一定以上の開発行為をするときは、必ず矢水協と協議するという仕組みが定着しました。これは紳士協定ですが、環境被害を及ぼすような開発を起こさずに済むため、現在も守られています。さらに矢水協では、流域全体の連携を積極的に進めました。上流の子どもたちを潮干狩りに招待する、三河湾で捕れたイワシを上流域の山村の朝市で売る、といった流域内の交流活動を盛んに実施しました。こうした一連の活動は「矢作川方式」と呼ばれ、全国に知られるようになりました。住民主体の河川環境保全のモデルケースとなっています。

この矢水協が残した言葉「流域はひとつ、運命共同体」は、矢作川を象徴する一つのスローガンになっています。

川の保全は官民一体で

●西広瀬小学校の活動

豊田市立西広瀬小学校では、1976年から矢作川の水質調査を始めました。この取り組みは、やがて保護者を巻き込んで大きな活動へと発展。2003年には連続調査日数10000日という偉業を達成しました。矢作川の小さな見張り番として、27年4カ月にわたり川を見守る活動は、今日も続けられています。

●筏下りに多数の参加者

1987年に始まった筏下り大会は、毎年5月第2土曜日に開催されます。かつての筏流し（川を使って木材を運ぶ流通方法）の歴史を振り返ると共に、地域の人が川と親しむイベントとして定着しています。

●近自然型工法で整備

全国に先駆けて、近自然型工法による護岸工事を施工した古鼠水辺公園。護岸をコンクリートで固めてしまうのではなく、水衝部に巨石を用いた水制工を施したり、玉石を使った散策路を整備するなど、地域に親しまれる矢作川を目指しました。施工後、地元住民が周辺の竹林を伐採。現在では、広葉樹が広がる憩いの場になっています。

●維持管理を市が支援

地元住民主導で立ち上がった環境美化団体「水辺愛護会」は、現在13団体が市に認定され、市からの支援を受けて活動しています。また愛護会同士で連携して連絡会を設立。定期的に勉強会や視察会を実施し、より良い水辺環境について話し合っています。

●水道料から森林基金

豊田市の水道使用量1㎥あたり1円を徴収し、矢作川上流の森林の間伐費用などのために積み立てています。放置され、水源涵養の機能が低下した森林を再生させるのに役立っています。

❶矢作川「川会議」には諸団体の代表者が参加し今後の「川づくり」を話し合う
❷近自然工法を採用し、地域の憩いの場となった古鼠水辺公園
❸矢作川水系森林ボランティア協議会と地域の森林研究者による市民参加型森林調査
❹水辺愛護会は現在13団体が市に認定されており、河川の維持管理活動を実施中
❺西広瀬小は1976年から毎日、矢作川の水質調査を実施。小さな見張り番として活躍

矢作川研究所が仲立ち

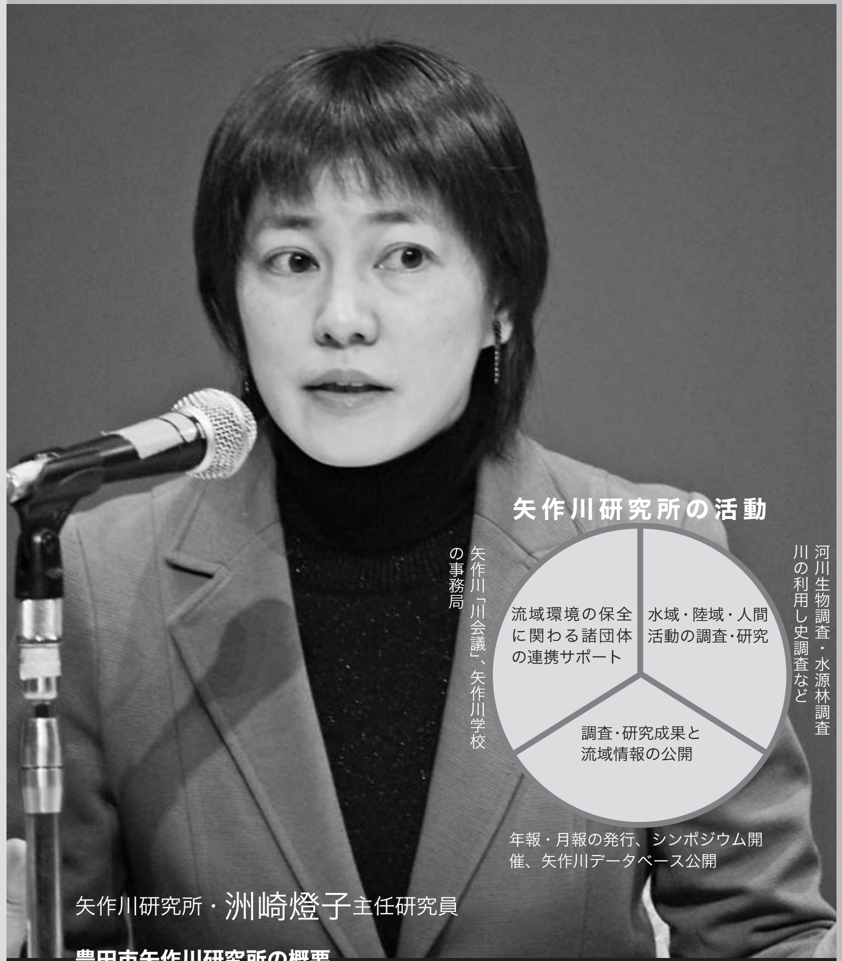
矢作川研究所が設立された1994年当時、矢作川はダムの影響により極端に水が少ない川になっていました。愛護団体による個々の活動はされていましたが、川辺には竹林が目立ち、上流域の森林は荒廃、生態系にも影響が出始めていました。一般の人たちにとって、川は身近な存在ではなくなっていたのです。

そんな状況を打破しようと、豊田市、矢作川漁業協同組合、枝下用水土地改良区が合同出資して矢作川研究所を設立。1998年には、常勤研究員を置いた市営の研究所となりました。矢作川の環境保全を目的として、天然アユなど水生生物の調査、上流域の森林調査、河川愛護団体の活動サポートなどを実施しています。また毎年5月第2土曜日を「矢作川の日」と制定。関係団体を集めて川会議を開き、情報交換や川を守る意識の共有を図っています。

自ら行動を起こす姿勢

矢作川環境改善の道のりは決して平坦なものではありませんでした。しかし、まずは自分ができることを考え実践してみる。そういった流域の人々の前向きな姿勢が、矢作川を守ってきたのではないかと思います。

矢作川流域では、子どもから大人まで、楽しんで活動に取り組んでいます。楽しんでいるからこそ、続いているんです。大井川流域でも、これらの事例が参考となり、住民主導の環境保全が進めば素晴らしいことです。



矢作川研究所・洲崎燈子主任研究員

豊田市矢作川研究所の概要

豊田市矢作川環境整備計画検討委員会（1990〜1993）の提言を受け、1994年、豊田市・矢作川漁業組合・枝下用水土地改良区の合同出資により第３セクター方式で設立。1998年より常勤研究員を配置して市営の研究所となる。矢作川が抱える諸問題の解決のため、多角的な調査研究を実施。また川や里山の自然・文化を守り受け継ぐ次世代の育成にも力を入れている。個々の活動団体をサポートし、流域全体の連携強化に取り組む。

大井川の環境改善に向けた取り組みを紹介

大井川でも個々に活動が展開されている。今後は、これらをどのように集約し大きな力に変えていくかが課題だ

大井川問題の根幹は「命を守り、命をつなげていく」ということ。

大井川の清流を守る研究協議会副会長

西原茂樹牧之原市長

大井川の問題だけでなく、何の問題を解決する場合でもそうですが、「楽しくやる」というのが一番大事です。楽しくやらないと、何事も続けていくのは難しい。そして行政が入ると、政治的な要素が絡むため、物事が大変複雑になるんですね。その分苦労も増えるんです。行政の目的としては、税収を増やす、人口を増やすといった面を重要視しなければならないからなんです。しかし、今、一番考えなければならないことは、大井川流域というのは、昔からお互いに密接な関係を持っていたということ。ずっとかかわりを持ってきているからこそ、これからも一緒に考えていくことが大事なんです。大井川は、流域の共通の財産です。杉山会長の言うように、たとえお金にならなくても、重きを置いて考えなければならないんです。本当に大切なのは「命を守り、命をつなげていくこと」なんですから。

これから「仕組み」として、山を守っている人たちが、安心して生活を営めるようなことを、わたしたちが考えていかないとなりません。幸いなことに静岡県には、水源税のような素晴らしい仕組みがあるんですから、今後は、その有効的な活用方法を模索していかなければなりません。

Case：1

目で見て初めて知ることも

実際に訪れる 大井川の現状を視察

大井川の清流を守る研究協議会では、流域住民に大井川の現状を知ってもらうため、毎年視察会を実施しています。昨年は秋に実施。高校生を含む21人の参加者が大井川の現状視察に出向きました。島田市神座の大井川用水分水工を始め、塩郷ダム、大井川ダムを視察。長島ダムでは提体内部の見学も実施し、大井川が現在どのような状態にあるのかを肌で感じました。

参加者たちは「わたしたちが飲んでいる水は、どのように取水されているかなど、知らないことがたくさんあった。これからも、わたしたちを支えてくれている大井川のことについて考えていきたい」と話していました。

ダムや堰堤などで取水の状況を見学

Case：2

接岨湖フェスタでふれ合い

水源地の誇り 川と親しむイベント

水源地の誇りを後世へとつなぐことを目的とした接岨湖フェスタは、夏に開催されています。平成18年に開かれた「森と湖に親しむつどい2006」の継続事業として開かれているこのイベントは、昨年が２回目の開催。1500人もの来場者が、長島ダム周辺へ訪れました。

接岨湖でのカヌー教室や、大井川の流木を利用した木工工作など、川と身近にふれ合うイベントとして、流域の人たちに親しまれています。

長島ダムふれあい館には、大井川に関係するたくさんの展示物があります。水源地川根本町の使命を、多くの人に知ってもらうという役割も担っています。

接岨湖面でカヌー教室を楽しむ

Case：3

山犬段にブナの苗木を植樹

水源林の保全 人の手で森を育てる

森林レクリエーション推進協議会と、町内の事業所などが協力し合い昨年４月、山犬段にブナの苗木を植樹しました。「川の恵みを、森林に還元したい」という、流域住民の思いから始まった水源地保全活動です。

ブナの苗木は、中部電力㈱大井川電力センターから寄贈されたもの。約40人の参加者が集まり、山犬段の町有地約1000㎡の範囲にブナの苗木を植樹しました。

参加者たちは「この苗木が周辺のブナのように立派に成長して、やがて水源地の保全につながってほしい」と願いを込め、丁寧に植樹していました。この活動は３年間継続して実施されています。

子どもから大人まで参加した山犬段植樹

Case：4

上流から下流まで住民参加

海岸を美しく 流域住民で海岸清掃

大井川の清流を守る研究協議会が主催する海岸清掃活動は毎年９月ごろ実施されています。「大井川の上流から下流まで一つになって環境保全に取り組もう」とするもので、昨年は本町から、議会議員、大井川の再生を考える会、温暖化防止地域協議会、地元企業、役場職員、有志の皆さんなどが参加し、下流域の人たちと協力し合い清掃活動を実施。大井川が関係する御前崎市海岸、吉田町海岸、牧之原市海岸など、それぞれの地点に分かれ、流木やビニールなど、大小さまざまなごみを拾い集めました。

昨年の活動には約700人が参加。上･中･下流域の人々の、交流の場にもなっています。

大量のごみを集めた海岸清掃活動

「水利用」「環境保全」。その折り合いを、どのようにつけていくか。

大井川の清流を守る研究協議会会長

杉山嘉英川根本町長

大井川は、南アルプスを源とし、多くの支流を集め駿河湾へと注いでいます。この流域圏では、大井川が関係する多くの自然環境が形成されています。その恩恵を受けて、わたしたちの生活や文化は成り立ってきました。

流域の８市５町にわたる広大な範囲に恩恵を与え、地域の経済成長を支えてきた大井川。しかし、水の循環が分断されてしまったこの川の現状は、河川機能や環境の維持という面では十分ではなく、生態系や海岸線にも悪い影響が出てきているといわれています。

この流域の自然環境を今後も守っていくために、地域住民はもとより、産・官・学の一体的な取り組みが求められています。

南アルプスから駿河湾深海まで、この流域にはさまざまな資源があり、大きな魅力を持った地域です。上流も下流も連携し、一つになって大井川のことを考えていくことが何より大事です。

流域の広大な自然環境の中で、自然と人、暮らしと環境、保全と利活用などの「折り合い」をどのようにつけていくか。そしてわたしたちは、それに向けて何ができるか、何をすべきか。議論し続けていくことが、最も大切なことと考えています。

部屋のスイッチを押せば明かりがつく。蛇口をひねれば水が出る。大井川は、わたしたちの気が付かないところで人々の暮らしを支えているー。もしも大井川がなかったら、わたしたちの暮らしはどうなっているのだろう。そのとき、この地に人は住めるのだろうか…。

本特集では、１月25日に開かれた大井川流域シンポジウムの模様を振り返りながら「後世に残したい大井川の姿」とはどんな姿か、また「そのために何が必要か」を考えてみた。この町よりずっと古い歴史を持つ大井川。２時間や３時間の討論で、すべてを語り尽くせるほど小さなテーマではない。古くはこの地の林業を支え、今も生活のあらゆる場面を支えてくれている。昔に比べて少なくなったとはいえ、夏になれば川で遊ぶ子どもたちの声がこだまし、アユ釣りシーズンには、太公望の竿がずらりと並ぶ光景が見られる。昔から受け継がれてきた地域の伝統行事も根強く残っている。人々の憩いの場として、今もなお大切な存在であることに変わりはない。

大井川を考える上で最も重要なことは、こうしたシンポジウムなどを通して、大井川の未来を考え続けること。そして「大井川」という存在の大切さを、人々の意識から消してしまわないことだ。

矢作川の事例を報告した洲崎主任研究員は「まず地元の人たちが、自分に何ができるのか考え、そして実行することが肝心。その積み重ねが、やがて大きな輪となっていく。矢作川では、流域が一つになろうという住民の思いが、川再生の原動力だった」と話した。

矢作川の例に見るまでもなく、大井川にもさまざまな住民運動、河川保護活動が展開されている。こういった取り組みの一つ一つは大きなものではないかもしれない。しかし、何もしないところからは何も生まれない。意識のないところには変化も生まれない。小さな運動がきっかけとなり、やがて大きな広がりを見せ、川を守る力になるということを、矢作川の事例は教えてくれている。

先に書いたように、「後世に残したい大井川の姿」というテーマは、簡単にその答えを導き出せるものではない。川本来の姿を考えれば、水を満面とたたえている姿が理想だ。しかし取水をやめてしまえば、わたしたちの暮らしが成り立たなくなるのも確かだ。「水利用」と「環境保全」。双方の視点から、妥協点を探し続けなければならない。

ある人が、「昔の人は、川の恵みにいつも感謝していたんだよ」と教えてくれた。生活が便利に豊かになった現代では、川のありがたみを感じることは少ないかもしれない。でも、一度想像してみてほしい。「もしも、この地に大井川がなかったらー」と。

わたしたちの部屋の蛍光灯は、明かりがともるだろうか。この地の誇り「川根茶」を育てることができるだろうか。下流域の人々が飲む水は、どこから供給されるのだろうか。人々に安らぎや癒やしを与えてくれる「水辺環境」は、どこにあるのだろうか。そもそもこの地に、人が住み続けられるのだろうかー。

とても無関心ではいられない。

大井川は「母なる川」。わたしたちの暮らしを豊かにする。包み込むようなやさしさで、見守ってくれている。今度はわたしたち自身の手で、大井川を守ることを考えてみたい。「後世に残したい大井川の姿」について考えてみたい。

ー後世に残したい大井川の姿　終

接岨湖湖畔に完成した遊歩道「八橋小道ラブロマンスロード（接岨）」を楽しそうにハイキングする人々。川は人に、安らぎと癒やし、楽しさも与えてくれる。身近に存在するからこそ、無関心ではいられない問題だ。

本庁町民課☎（56）2222　税務課☎（56）2223　総合支所保健福祉課☎（58）7071

納付の際は忘れずご確認ください
国保税の徴収時期が変わります

現在、国民健康保険税は年12回（毎月）、口座振替や納付書で納めていただいています。この納付回数が、平成21年度から年9回に変わります（7月から納付開始）。

納付の際は、通帳の残高など忘れずにご確認ください。

※年金から国保税を納めている世帯については、これまで通り、年金受給月の納付に変更はありません。

これまでの納期

4月～翌3月までの毎月（年12回）

平成21年度からの納期

7月～翌3月までの9回

※仮徴収期間が無くなったための変更です。

詳細は役場担当課まで。

本庁建設課☎（56）2227

島田警察署と町が協定調印を結ぶ
公営住宅の暴力団員入居を排除

「川根本町町営住宅等における暴力団排除に関する協定」の調印式は1月27日、本庁3階会議室で執り行われ、佐藤富男島田警察署長、杉山嘉英町長、関係職員が出席しました。この協定は、公営住宅に入居しようとする暴力団員を、警察署と町が連携して排除するものです。杉山町長は「住民の暮らしを守ることがわたしたちの役割。社会から暴力を排除するためにも、連携を密にしていきたい」と話していました。

調印式の様子
右が佐藤富男島田警察署長

本庁建設課☎（56）2227

若者定住促進住宅入居者を募集
若者の定住対策を推進しています

若者定住促進住宅（地名）の、B棟4戸の入居者を募集します。

募集期間
2月16日(月)～3月13日(金)

入居可能予定日　3月25日～

入居者の資格

1. 入居日に満18歳以上、満38歳以下の人
2. 町税などに滞納がない人
3. 配偶者もしくは、満13歳以下の同居する児童を扶養していること
4. 居住するための住宅を必要とする人で、入居1カ月以内に住所移転が可能な人

詳細は、本庁建設課まで。

建設進む若住促進住宅（地名）

まちづくり観光協会☎（59）2746　本庁企画環境課☎（56）2221

千年の学校公開講座3・28開催
21世紀の農山村の役割を学ぶ講座

厳しい経済情勢の中、真の農山村の役割とは何か？を学ぶため、静岡文化芸術大学川勝平太学長による講演会を開催します。講演後は、川勝平太学長を囲んで昼食会も予定しています。※講演・昼食会共、千年の学校生以外の人も参加できます。

日時　3月28日(土)
講演：午前10時30分～正午、昼食会：正午～午後1時

場所　文化会館ホール

参加費　無料（昼食会参加希望者は500円）

演題　21世紀の農山村のやくわり（静岡文化芸術大学川勝平太学長）

川勝平太氏
（千年の学校名誉学長）

茶娘ちゃんカード会　川根本町上長尾773-1　☎（56）0231

年末抽選会の当たり番号は、確認しましたか？
◎当たり券の交換に来ていない方がいます。今一度、抽選券を確認してみてください。
◎当たり番号の分からない方は、商工会または各加盟店にお問い合わせください。
◎年末抽選会の当たり券についても、平成21年3月31日が有効期限です。

神光寺沢の里山の復活に一役
緑と水清流燦燦会などが苗木の植樹

里山を復活させる活動に取り組む「緑と水清流燦燦（さんさん）会（市川昌美会長）」は昨年12月7日、千頭神光寺沢周辺を中心に植樹活動を実施しました。中部電力㈱大井川電力センター（寺本達也所長）より寄贈されたブナ、紅梅、オオヤマザクラなどの苗木を、同会、中電職員、地元有志など約40人が丁寧に植樹しました。参加者は「苗木が無事成長し、地域の安らぎと憩いの場になれば」と期待を込めて話していました。

ブナ50本、紅梅20本、アラカシ20本、オオヤマザクラ50本、シャリンバイ10本を植樹しました

中村とし子相談委員による説明
子どもたちは、真剣に受講しました

「行政相談」ってなんだろう
中央小６年生が行政相談教室を受講

総務省静岡行政評価事務所が主催する「行政相談出前教室」は１月23日、中央小学校で開かれ、６年生９人が受講しました。行政評価事務所の職員が、行政相談について分かりやすく説明したあと、本町の相談委員渡邉妙子さん（八中）と、中村とし子さん（小長井）が、最近の相談事例を紹介しました。子どもたちは、身近に起こった事例が分かりやすかったと見え、相談委員に活発な意見や質問を投げかけていました。

ご長寿おめでとうございます
山本猪作さんが100歳を迎えられ

１月16日に100歳の誕生日を迎えられた山本猪作さん（高郷）の長寿を祝うため、澤本副町長が山本猪作さんの自宅を訪問。猪作さんには、副町長から記念の品や花束が手渡されました。猪作さんのもとには昨年の９月15日、石川嘉延県知事も長寿の祝いに駆けつけており、重ねての喜びとなりました。

猪作さんは、100歳になった今もとてもお元気。これからもずっと明るい笑顔でお過ごしくださいね。

猪作さん100歳おめでとうございます。
これからも末永くお元気で

教平さん（後列中央）は、手揉み保存会に所属し活動しています。緑茶をよく飲むことも秘訣ではないかと話していました

健康な歯で健康な身体を保つ
山口教平さん8020県民表彰受賞

口からはじめる健康づくりをテーマとした「8020推進静岡県大会2009」は１月29日、グランシップで開催され、本町から山口教平さん（藤川）が出席しました。

この席で教平さんは、8020県民表彰を受賞。平成18年度には8020推進財団理事長賞を受賞しており、今回が２度目の受賞です。健康な歯の秘訣を尋ねると、「何でもよくかんで食べること。あとは緑茶をよく飲むことも予防になっていると思います」と話していました。

茶娘ちゃんカードの有効期限が近づいています

★今お使いのポイントカードは、平成21年3月31日をもって使えなくなります。４月１日から新しいカードとなります。機械の関係で、今のカードは**一切使えなくなります**のでご注意ください。

この町に「走る文化」を根付かせたい

走ろう会

2月4日、午後6時15分過ぎ。大井川鐵道千頭駅前。

吐く息が白い。

人影のまばらだった駅前広場に、自転車に乗った子どもたちが集まり始めた。次第に増えるトレーニングウェア姿の人影。いつの間にか、大人の姿も混じり始めていた。

6時30分、20人近い人が駅前広場に集まり、中村稔さんの合図でストレッチが始まった…。

走ろう会（中村稔代表）は、千頭地区周辺でジョギングを楽しむ有志の会だ。毎週水曜日、この時間に千頭～田代～小長井の周回コースを走っている。下は小学3年生から上は50歳代まで、年齢の幅はかなり広い。

代表の中村稔さんに話を聞いた。

「この会の発端は約8年前にさかのぼります。第1回しずおか市町村対抗駅伝（平成12年）の開催が、設立のきっかけでした。駅伝の選手兼スタッフとして参加していた高土寿和（奥泉）、石原一則（崎平）とわたしは、小学生の選手が見つからず、苦労していました。そこで、マラソン競技の底辺拡大と、選手育成を目的として、3人で「走ろう会」を立ち上げました。走ることを町に根付かせたかったんです」と、当時を振り返る。

それから約8年、特に会員募集や活動告知をした訳でもないのに、自然と走る仲間は増えていったと言う。「最初は少ない人数で走っていました。徐々に口コミで広がっていったんですね。だから正確な会員数は今も分からないんですよ」と稔さんは笑う。

今では、しずおか市町村対抗駅伝に出場する子も会に在籍している。選手育成という当初の目的は達成されたのでは？と尋ねると、「実は、今はそういった狙いには、あまりこだわっていないんです。メンバーたちはみんないろいろなきっかけで入会してくれます。健康のためだったり、仲間づくりのためだったり。親に誘われて走り出した子もいます。ただ走る事を追求したいという人も当然います。走るという行為を楽しめれば、それでいいんです」。

メンバーによって、走り方もまちまちだと稔さんは続ける。「速く走ってもいいし、遅く走ってもいい。今走っている周回コースは、1周約3㌔あるんですね。それを1周走る子もいれば、4周走る人もいる。その人に合ったスタイルやペースで参加してくれれば、それが一番なんです。わたしはこの町に、走る仲間を増やしていきたいだけなんですから」。

大勢で走れば、危険も少なそうだ。「最近夜になると、一人で走っている人や、ウオーキングしている人をよく見かけますよね。わたしたちにぜひ声をかけてほしいんです。本川根の人でも、中川根の人でも構いませんし、老若男女も問いません。仲間で走ると楽しいし、危険も少ない。きっと長続きすると思いますよ」。

会のメンバー同士が集まって、各地のマラソン大会や駅伝大会に積極的に参加していると言う。

「メンバー同士で誘い合って、いろんな大会に出場しています。最近では森町や春野の大会にも出場しました。2月以降も大会が目白押しです」と意気込む。

一人で走り続けることはなかなか難しいが、仲間がいればお互いに切磋琢磨したり、あるいは会話を楽しんだりすることもできる。大会情報などを共有し合うこともできる。そんなところも、この会の魅力の一つなんだろう。

「走ることを趣味として広げていきたい。この町に『走る文化』を根付かせたいんですよ」と笑顔で話す稔さん。その額には、さわやかな汗がにじんでいた。

走ろう会代表　中村稔さん（崎平）

走ろう会の会員を随時募集中

走ろう会では、会員を随時募集しています。健康のために走りたい人、仲間と一緒に走りたい人、夜一人で走るのが怖い人など、理由は何でも構いません。わたしたちと一緒に走りませんか？

毎週水曜日の午後6時30分、千頭駅に集合し、千頭・小長井周辺を走っています。小学生から大人までが参加した、気軽な会です。興味がある人は、ぜひご連絡ください。　中村稔　☎（59）2474

このまち
このひと

・伐採木・剪定枝葉・竹等の処分いたします。川根本町指定一般廃棄物処分業（木くず）
・解体工事、敷地造成工事、その他土木工事
・樹木伐採、竹林整備、茶園改植　お気軽にお問い合わせ下さい。
徳山建設株式会社 TEL（57）2321
お見積もり無料
川根本町徳山793番地　URL http://www.toku-ken.co.jp

生涯学習のひろば

教育委員会 生涯学習課 ☎（59）3106

親子で取り組む読書活動について報告
家庭教育学級の合同研修会・閉講式を開催

家庭教育学級の発表

家庭教育学級の締めくくりとなる家庭教育学級合同研修会・閉講式は１月31日、文化会館ホールで開催されました。本年度の家庭教育学級では、家庭内での読書習慣の定着を目指し、「親子で取り組む読書」を共通活動として進めてきました。式では、各家庭教育学級の運営委員長から１年間の活動報告がなされました。中でも、子どもの感想を一言記入して回覧する「読書回覧」や、お父さんたちが参加したハンカチシアターの取り組み発表が好評でした。また、お話どんぐりの会員による読み聞かせ「花さき山」では、情感たっぷりのやさしい語り口が、聞く人を本の世界へといざないました。学級生からは、これまでの活動を振り返り「子どもと接する機会が増え、親子関係が深まった」「本を読む習慣がついて、子どもも大人も楽しめた」などの感想が寄せられました。

47人の推進委員が出席して活動を報告
生涯学習推進協議会・第３回研修会を開催

生涯学習推進協議会では、３回目となる研修会を２月５日、山村開発センター会議室で開催しました。各地区から47人の推進委員が参加し、この1年間に実施された地区生涯学習活動や、先進地視察研修についての報告がなされました。また、それぞれの地区の取り組みについて意見交換を実施。本年度活動の良かった点や反省点などをお互いに振り返っていました。

町内の各地区それぞれに、その土地の特長を生かし、地域に根差した取り組みを実践していることが伝わってきました。今後も、その地区ならではの活動が展開されていくことでしょう。

先進地視察研修報告　桑野山区推進員

取り組み報告　上岸・前山、坂京、梅高地区推進員

なお後日、「地域で取り組む生涯学習広報誌」を、各戸配布する予定です。

上岸・前山地区の生涯学習活動発表

定休日
毎週月曜日第3火曜日
あけぼの
56−0102
川根本町上長尾816−1
味彩（あじさい）￥3,150
あけぼの川根　検索

３歳から、小・中・高校生までのパソコンスクール
基礎から応用と、教科学習もベネッセのソフトで学ぶ
パソコンスクール アビバキッズ　本川根教室
パソコンを学ぶ！ パソコンで学ぶ!!
Benesse Group
AVIVA KIDS アビバキッズ
TEL0547-59-3292　アビバキッズ　検索

問　裁判員を辞退することはできないの？

裁判員制度は、特定の職業や立場の人に偏らず、広く国民に参加してもらう制度ですので、原則として辞退はできません。ただし、参加する個々の国民の負担が、過重なものとならないようにとの配慮などから、例えば70歳以上の人や、重い疾病や傷害により裁判員の職務を行うことができない場合など、法律に辞退事由が定められており、裁判所がそのような事情にあたると認めれば辞退することができます。

答　法律で認められた事情がある場合は、辞退も可能です。

8チーム16人が参加して熱戦繰り広げ
B&G海洋センター主催バドミントン大会

大会に参加した皆さんで記念撮影

本川根Ｂ＆Ｇ海洋センター主催のバドミントン大会は１月27日、海洋センター体育館で開催されました。町全域から８チーム16人が参加。本大会はカテゴリー（部）分けをせず、全チームによるトーナメント方式で試合を進行しました。各コートで熱戦が繰り広げられた結果、藤田聡・松山哉子ペアが初優勝を飾りました。参加者の家族による応援合戦も盛り上がった大会でした。結果は次の通り。

１位▶藤田聡・松山哉子ペア、**２位▶**南弘記・山下美沙子ペア、**３位▶**大村敏正・森下加奈代ペア

昨年末には、町民大会バドミントンの部も初開催され、大盛況となりました。ぜひ次回は、皆さんもご参加ください。

今月の予定

８日日 生涯学習スポーツのつどい
　ファミリーマラソン・スティックゴルフ大会
14日土 第19回かわねほんちょうスポーツクラブ
28日土 第20回かわねほんちょうスポーツクラブ
　（チャレンジカヌーツーリング）

町民ギャラリー▶「地域で取り組む生涯学習展」
文化会館▶「ポスター展示」中部電力㈱
※作品の展示を希望される人は、教育委員会までご連絡ください。

より良い品を　より安く
オザワマート
営業時間・午前９時〜午後７時（日曜日・午前９時〜午後６時）
川根本町上長尾　☎56-1108　FAX56-1109
平成21年３月14・15日に交換できます。
11000ポイント引換券
１万円とこの券で11000ポイント販売いたします。
千円分お得です。最高２万円まで販売します。
この券を切り取ってお持ちください。オザワマート
キリトリセン

「使おうと思ったのに使えない、今日しか休めないのに」何てことにならないように
お早めに！！試運転（３分程度）＆刃の確認をお願い致します。
※ホーチキの火災警報器を日立工機が販売・2個以上がお得価格で好評販売中

農機具の購入・修理・改造など、お気軽にご相談ください。地域のお店だからこそ、ていねいに分かりやすく、迅速に対応いたします！

前田機材

川根本町上長尾795−1
ＩＰ電話　☎050−3363−2252
☎56−0006
FAX56−0009

もしもの時の自動車保険。新規加入説明、年齢条件、家族限定説明など、わたしにお任せください　担当：小井

川根自動車株式会社

川根本町上長尾 869-2　TEL：0547（56）0150

くらしの情報ページ

■本庁☎（56）1111　■総合支所☎（59）3111

自動車運転免許の更新手続き場所が一部変更されます

ー島田警察署・役場総務課からー

３月30日㊊から、免許の更新手続き場所が一部変更になります。手続き場所は、更新通知はがきに記入されています。

●島田警察署で更新手続きできる人

【優良運転者】…過去５年間において、無事故・無違反のドライバー

【高齢運転者】…免許更新時の誕生日に70歳以上になるドライバー　※自動車学校などで高齢者講習を３時間受ける必要があります。※違反歴がある70歳以上のドライバーもここに含まれます。

●中部運転免許センターで更新手続きをする必要がある人

【一般運転者】…過去５年間、軽微な違反（違反点３点以下）が１回のドライバーなど

【違反運転者】…過去５年間の違反歴・事故歴で６点以上、または２回以上の軽微な違反があるドライバー

【初回更新者】…免許取得後、初めて更新をするドライバー　※初回更新後の「特例更新」で、免許更新から継続して５年未満のドライバー

詳細は次の問い合わせ先まで。

【問】本庁総務課☎（56）2220
島田警察署☎（37）0110

花粉症対策を進めています　少花粉の苗木植樹に協力金

ー国・県森林組合連合会からー

スギ花粉が原因の「花粉症」の対策として、森林所有者が杉林を伐採し、その跡地に少花粉杉苗木や広葉樹の植栽などを施した場合、伐採面積１㌃当たり20万円の協力金（国の補助金）が交付されます。

【問】全国森林組合連合会
☎03（3294）9714
県森林組合連合会☎054（648）0045

年度末は窓口が混雑します　自動車各種手続きお早めに

ー中部運輸局静岡運輸支局からー

年度末（３月末）は、自動車の検査、登録窓口が大変混雑します。廃車・名義変更・車検などの手続きはお早めに済ませるようお願いします。

受付時間　平日午前８時45分〜11時45分、午後１時〜４時　※土日・祝日、年末年始は受け付けしません。

テレホンサービス☎050（5540）2050

60歳未満・農業従事者の人　農業者年金をお勧めします

ー町農業委員会・ＪＡ大井川からー

●農業者なら誰でも加入できます

60歳未満の人で、国民年金第１号被保険者、年間60日以上農業に従事している人なら誰でも加入できます。

●積立方式で安定した財政運営

将来受給する年金は自らが積み立てるため長期に安定した制度です。

確定給付型でなく確定拠出型の積立方式のため、安定した運営が可能です。

●保険料の国庫補助があります

認定農業者で青色申告をしているなど、一定要件を備えた意欲的な担い手には、保険料の国庫補助があります。

●保険料を自由に選択

自分が必要とする年金額の目標に向け、保険料を月額最低２万円から最高６万７千円まで、千円単位で加入者自身が選択できます。また、いつでも見直すことができます。

●税制面でも大きな優遇措置

支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象です。将来受け取る農業者年金についても公的年金など控除の対象となります。

●80歳までの保証が付いた終身年金

年金は生涯支給。仮に加入者や受給者が80歳前に亡くなった場合でも、死亡した翌月から80歳までに受け取ると仮定した金額が、死亡一時金として遺族に支給されます。

【問】本庁産業課☎（56）2226
総合支所事業課☎（58）7076
ＪＡ大井川中川根支店☎（56）1103
ＪＡ大井川本川根支店☎（59）3123

共にソフトボールを楽しみませんか？藤川スポ少募集

ー藤川スポーツ少年団からー

藤川スポーツ少年団では、一緒にソフトボールを楽しみたい子を随時募集しています。将来野球選手になりたい子、オリンピックで感動した子、友達をつくりたい子…。熱心な指導者と、一生懸命な仲間が待っています。藤川スポ少で、共に汗を流しましょう！

【問】塩崎浩己（事務局）☎（57）2991

野球を楽しみながら礼儀も学ぶ中川根野球少年団募集

ー中川根野球少年団からー

中川根野球少年団は、現在24人。土・日曜日に活動しています。シーズン中の試合は練習試合、公式戦を含めて月に２から３回。他チームとの合同でのバーベキューや、年２回の奉仕活動も実施します。野球を通じて、礼儀や協力することを学びます。モットーは「声をかけ合い、励まし合う」こと。中川根の小学生たち、一緒に野球を楽しみましょう！（女の子も大募集）

【問】鈴木彰則監督☎（56）0004　田旗光太父母の会会長☎（56）1390　薗田正明（事務局）☎（56）1105

第20回県すこやか長寿祭のスポーツ大会参加選手募集

ーしずおか健康長寿財団からー

この大会は、多くの種目で「ねんりんピック北海道・札幌2009」の予選会を兼ねています。

大会期間　４月５日㊐〜５月31日㊐
会場　草薙総合運動場（静岡市）ほか
種目　卓球、テニス、マラソンほか
資格　原則60歳以上の県内在住者

【問】しずおか健康長寿財団☎054（253）4221　※申し込みは３月１日から。

お誕生おめでとう

氏　名	地区	性別	保護者
山下　颯汰（そうた）	高郷	男	直通
河畑　杏実（あみ）	梅高	女	一之
丹田　操醒（あやさ）	徳山	女	祐介
山本　悠真（ゆうま）	徳山	男	正

ご結婚おめでとう

地区	氏　名	前住所
小長井北	根附　洋充	小長井北
	太田　清香	上長尾

お悔やみ申し上げます

氏　名	享年	地区	届出人
森下和義	81	奥泉	ふさ
中村博代	52	寺馬	幸
木村康弘	64	千頭西	章英
後藤芳太郎	93	小長井西	勝
芹澤たか	79	小長井南	一夫
澤田良平	91	崎平	学
小倉さだ	92	崎平	一孝
山下たみ	90	崎平	昌子
平口松男	86	藤川	正晃
瀧本てる	95	藤川	茂昌
藤田昭彦	64	高郷	はるか
中山ゑん	96	瀬平	敬一郎
森下一男	82	地名	光子
藤田ふみ	86	地名	博行
大畑　勇	65	徳山	美津子

■戸籍欄に掲載を希望されない場合は、届出時に窓口でお伝えください。

■前々月に届け出された出生・婚姻・死亡の届け出の内、本町に住所があり本町の窓口（本庁・総合支所）で受け付けた分のみ掲載しています。

次世代育成支援対策推進法　４月１日から改正されます

ー県企画部調整室からー

急速な少子化の進行などの現状を打破するためには、すべての子どもがすこやかに生まれ育つ環境を整備する必要があります。総合的な次世代育成支援対策を推進するため、児童福祉法などの一部を改正する法律が平成20年12月３日に法律第85号として公布。次世代育成支援対策推進法の一部が改正されます。改正法のポイントを一部紹介します。

❶行動計画の公表・従業員への周知義務

仕事と家庭の両立を支援するためには、雇用環境を整備する必要があります。事業主が策定する一般事業主行動計画の公表・従業員への周知が、従業員101人以上の企業は義務、100人以下の企業は努力義務となります。※101人以上300人以下は、平成23年３月31日まで努力義務。

❷行動計画の届出義務企業の拡大

一般事業主行動計画の策定・届出義務の範囲が従来の従業員301人以上企業から、従業員101人企業に拡大されます。

【問】県労働局　☎054（252）5310
本庁健康増進課☎（56）2224
行動計画の策定の相談窓口一覧サイト
http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/jisedai/dantai.html
厚生労働省ホームページ
http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/jisedai/index.html
両立支援のひろば
http://www.ryouritsushien.jp/

町の水環境を守り続けて30年…　【浄化槽管理・保守点検】

有限会社　川根浄化槽管理センター

川根本町東藤川1107−1
事務所☎59−3776　自宅☎59−2494（井口）

■トクトク情報！　ただいま、以下のお客様に初回定期点検料金が「な〜んと半額！」のサービス
１，新規ご契約のお客様　　２，ご紹介による新規ご契約のお客様と、ご紹介者様

より良い品を　より安く

オザワマート

11000ポイント交換は、平成21年３月14・15日です。

３月　ゴールド会員特別価格！
火曜日と金曜日に特別価格の品があります。
日曜日・月曜日に2000円以上お買い上げのレシートで、お得なサービスがあります。

みんなの広場

お便り・作品を大募集　役場広報までどうぞ　My Home Town Kawanehoncho

ハガキ：〒428-0313 上長尾627　ファクス：(56) 2235
ホームページ：http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp

生まれてくれてありがとう

～1歳になったばかりのお友達を紹介します～

前田心（こころ）ちゃん 平成20年２月21日生
父：典彦　母：以佐子　地区：藤川

　こころ、1歳のお誕生日おめでとう。
　こころが笑うと、みーんなもニッコリ＾＾
元気に大きくなってね。この家に来てくれて、本当にありがとう。

横山多凰（たお）ちゃん 平成20年２月19日生
父：慎一郎　母：明日香　地区：青部

　お誕生日おめでとう。生まれてきてくれて、心からありがとうを言います。愛にあふれたやさしい人になってね。これから、素敵な夢を描いていこうね。

石間佑菜（ゆな）ちゃん 平成20年２月９日生
父：功人　母：真知子　地区：地名

　佑菜、1歳のお誕生日おめでとう！　音楽に合わせて、身体を動かすのが大好きだね。
　これからも、たくさん遊んで、笑って、元気に大きくなってね！

中村優斗（ゆうと）くん 平成20年２月16日生
父：雅一　母：美芽　地区：藤川

　優斗、1歳のお誕生日おめでとう！　良く食べて、良く動き、良く寝て、すくすく育っていますね。お姉ちゃんたちと遊ぶのも大好き。やさしくて強い男の子になってね。

▼編集後記

　旧町の時代から、教育に情熱を注ぎ続けた澤村迪男教育長。実は、わたしも教育を受けていた。広報紙の入稿前には、必ず教育長に原稿チェック（校正）をしてもらっていたのだ。広報担当1年目のころ、毎月原稿には真っ赤になるほどペンが入っていた。付箋（ふせんし）紙もたくさん貼られていた。毎回、戻ってきた原稿を見直すのが怖かった。でも、もしもあの校正がなされないまま広報紙を発行していたら…。その方がよっぽど怖いことだと、今更ながらに思う。昨年の暮れ、教育長はわたしに「最近、直すところが少なくなって寂しいね」と言って笑った。先月号の原稿には「広報コンクール優秀賞おめでとう」と書かれていた。もうあの赤い字も、びっしりと書き込まれた付箋紙も、見ることはできない。今はそれが、たまらなく寂しい。
小笠原聡

チラシ・カタログ・DM・自分史・カレンダー etc
松本印刷株式会社
島田営業所／島田市横井４丁目８番３号
電話 0547-36-5015　FAX 37-1823

眼科患者さん無料送迎いたします。
ご近所から、当院まで送迎車にて無料送迎いたします。
ご予約は電話にてお願いします。
（当院に初めて受診される方もご利用いただけます）
島田眼科クリニック
住所：島田市日之出町3-9
島田駅から徒歩1分
☎0547-37-0431
診療時間：午前9時～12時、午後2時～6時
（休診日：水曜，第２・第４日曜日，祝日）

健康 知ってトクする の話

32

このページでは、カゼの予防、健康診断、心のケア、食事に関する豆知識など、皆さんが日頃気になっている健康に関するよもやま話を、保健師・栄養士・看護師の皆さんがリレー形式でご紹介しています。

今月の執筆者
伊藤千佳子（ちかこ）保健師

今月の**知ってトクする健康の話**のテーマは「特定健康診査・保健指導」。伊藤千佳子保健師がご紹介します。

“特定健康診査”“特定保健指導”は、受けられましたか？

40歳以上の健康診査に変化

　本町では20数年にわたり、老人保健法に基づく「基本健康診査」を実施し、多くの人に受診していただきました。しかし平成20年度から、国の医療構造改革を受けて、40歳以上の健康診査が大きく変化しました。「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、各医療保険者に、40から74歳の被保険者を対象とした「特定健康診査（特定健診）」の実施が義務付けられたのです。
　これまでに広報紙などを通じて、制度改正についてお知らせしてきましたが、「私は夫の社会保険の扶養になっているけれど、どこで受診できるの」「健診を希望しなかったのに国保受診券が届いた」といった問い合わせもいただきました。
　新たな制度「特定健診」は、各医療保険者が対象年齢である被保険者全員を対象としています。川根本町国民健康保険の加入者には、町国保から特定健診の案内が通知され、被用者保険の本人および被扶養者には、それぞれが加入している医療保険者から案内が通知されました。
　労働安全衛生法による事業主健診が優先されるため、たとえ国保被保険者であっても事業所に勤務している人は、事業主健診を受診される場合もあります。

特定健診受診状況について

　平成20年度の川根本町国保加入者40から74歳の皆さんの特定健診受診状況はどうだったのでしょうか。４月１日時点の対象年齢被保険者数２，１９７人。特定健診として受診された人は榛原医師会健診、静岡厚生病院健診の両方で９４３人（暫定）です。
　実際の受診率は、たとえ町国保特定健診の受診券で受診していても、その後に社会保険や後期高齢者医療保険に異動された人や、転出された人、年度途中で町国保に加入された人は受診率算出の上では反映されません。このため、まだ正確な受診率は算出できませんが、前述の数で算出した暫定的な受診率は約43％になりました。
　また、国保保健事業の人間ドックは約90人（特定健診重複受診者含む）が受診されています。
　平成18年度の基本健診で国保被保険者の受診割合は36・３％で、若干の受診率上昇となりました。しかし一部条件を除き、対象者は40から74歳全被保険者になるため、まだまだ半数以上の人が特定健診を受けていません。
　最終的な町全体の受診状況が確認され次第、町内地区別の受診率などについても分析し、今後紹介していきたいと考えています。

生活習慣病を予防するため

　この特定健診は、「メタボリックシンドローム」に着目した特定保健指導をし、生活習慣病予防につなげていくという狙いがあります。保健指導を必要とする人を抽出するための健診と位置付けられています。国保特定健診受診者で、特定保健指導の対象者には、町担当係より案内が通知されています。
　４月になると、例年どおり町から各戸世帯主にあてて、各種健診対象者調査票を配付します。国保加入者で、40から74歳の特定健診対象者は、榛原医師会健診または静岡厚生病院健診のいずれかで受診することになります。調査票への記入についてご協力ください。
　社会保険（被用者保険）加入者で、特定健診の対象者は、各医療保険者からの指示・案内にご注意ください。

入学・進学　婚礼内祝　出産内祝　快気祝　新築記念　カタログギフト　弔事・法要

川根地区 無料宅配！ できる限りのお手伝い致します！ ギフトセンター文化堂

緑のふるさと協力隊・中野千江さんは、この町に何を残したのか

県立川根高等学校では1月19日、緑のふるさと協力隊員として本町に1年間派遣されている中野千江さん（札幌市出身）を招き、同校体育館で講演会を開いた。

午前8時半ごろから始まった講演には全校生徒が参加。千江さんは、本町の印象や活動を通して得たことなど、熱心に語りかけた。講演後は、生徒からの質問が相次いだ。

本号巻末特集は、中野千江さんが、皆さんに贈る「ラスト・メッセージ」。

千江（ちえ）の輪（わ）。

最終話

緑のふるさと協力隊とは、NPO法人地球緑化センターが実施する事業の一つです。若者を1年間農山村に派遣し、まちづくりなどのお手伝いをします。

派遣前に実施される研修では、どの隊員もやる気に満ちあふれた顔ばかり。最初は「自分が町を変えるんだ！」という強い意気込みで、派遣先に乗り込んでいきます。

でも実際にその町で生活してみると、隊員が想像していたほど農山村は困っていない、というか苦しんでいない。みんなパワーとエネルギーにあふれ、生き生きと暮らしていることに気付くんです。

自分が川根本町に派遣された当初は、なぜ派遣されたのか、自分に何ができるのかと、戸惑うこともありました。でもここで暮らすうちに、次第に「自分もこの町の人のような、大らかな人間になりたい」と、自然に思えるようになってきたんです。そして「この町の人のこと、もっと多くの人に知ってほしい」と思うようになりました。この町の自然も、川根茶も、人の温かさも、どれもこの町にしかない良さです。それを町外の人に教えてあげる。ここはいいところだよと紹介してあげる。それこそが、わたしにもできる「まちづくり」の形なんだと思えるようになったんです。

わたしは日本茶インストラクターの資格を持っています。お茶が好きで、これからももっと勉強していきたいと思っています。実はわたしは虫が苦手なんですが、畑で農作業をしているときは、くもの巣やお茶の木につく虫も、不思議と平気なんです。自分が好きなことをしていたり、学んだりしているときは、ささいなことは苦にならないものなんだと思います。朝、野球部の子たちが、遠征に出かける姿をたまに見かけます。日々の辛い練習や、朝早くから遠方に出かけることだって「野球を好きだ」という気持ちがあるから乗り切れるんだと思います。

皆さんもぜひ「自分に一つだけのもの・本当にやりたいこと」を見つけてください。きっと、周りに左右されず、何事も苦にならずに、努力していけると思います。

―熱心に聴講する生徒たちを前に千江さんは、自身が1年間に経験したことを交えながら、約30分にわたって語りかけた。千江さんは最後に、生徒たちにこう話して講演を締めくくった―。

この町に来て、すごくいいなあと思ったこと。それは「人と人とのつながりが濃い」ということです。わたしは札幌で一人暮らしをしていたんですが、自宅にいると誰とも会話せずに1日が終わることも多くありました。自分の部屋の上下左右にどんな人が住んでいるのかも知りませんでした。この町では、知らない人が気軽にあいさつしてくれます。何げなく歩いていても、誰かが声をかけてくれます。

「特に用はないんだけど…」と言いながら様子を見に来てくれたり、玄関先に野菜を置いていってくれたりする人がたくさんいます。地域の皆さんに見守られていることが、とてもうれしく思えたんです。

夏には、地区の行事に参加させてもらい、そこで伝統が受け継がれていく様子を目の当たりにしました。年上の人が年下の人たちに伝統・文化を教え伝えていく。地域の人たちがみんなで地域の良さを守っている姿がとてもまぶしく見えました。わたしもそこにかかわらせてもらったことが本当にうれしかったんです。

わたしが住んでいる札幌市は、人はいっぱいいるけれども、人と人とのつながり、コミュニケーションが薄い街です。人の温もりを感じることが少ないのです。

皆さんは、これからそれぞれの目標に向かって歩いていくことでしょう。この町を離れる人もいると思います。ここでは当たり前だった人と人のつながりや温もり。町の外に出たとき、初めてそれに気付くのかもしれません。皆さん、古里の良さをずっと覚えていてください。そしてこの町の良さをどんどん外に広めていってください。ここに誇りを持ち、自分の町は良いところだと、紹介できる人になってください。皆さんにできる、まちづくりの第一歩だと思います。

わたしも、ちゃんと札幌市の自慢を紹介できる人になりたい。そして、この町の良さを、一人でも多くの人に伝えていける人になりたいです。

川根高等学校
深沢秀明校長

昨年の暮れ、役場の企画環境課から、中野千江さんの講演を開いてみたらどうかと打診がありました。川根高校としても、これは貴重な機会だと考え、快諾しました。

当初は３年生のみでこじんまりやる予定でしたが、緑のふるさと協力隊の意義を知り、考えが変わりました。多くの生徒に聞いてもらいたいと思い、全校生徒参加にしたんです。この町を、外からの視点で見つめた話はとても新鮮で、楽しく聞くことができました。

生徒たちからも、活発な質問が飛び出しました。それぞれに得るものがあったんだと思います。

３年２組
荒波祥吾さん

わたしは中野千江さんに、どうすればこの町はもっと良くなるのかと尋ねてみました。すると「この町は今のままでも良いところがいっぱいある。でも外へ向けたアピールが足りないのでは。もっとみんなが町外の人に向けて、ここは素晴らしい町だよと自信を持って紹介してほしい」と答えてくれました。

わたしたちが普段何とも思っていないようなことでも、改めて考えてみると「あれも良さなのかも」と思える場面がたくさんあることに気付きました。これからは、自分が暮らすこの町に誇りを持ち、大切にしていきたいと思います。

ラストメッセージ
Last Message

協力隊員としての１年をふり返って

本町に派遣されて約１年。まもなく活動終了を迎える。千江さんは来町当初、広報の取材に対して「これからこの町の、魅力や好きなところを見つけていきたい」と話していた。１年が経ち、千江さんはどんな答えを見つけたのだろう。皆さんに贈る「ラスト・メッセージ」。

生まれて初めて、おみくじで「凶」を引いてしまった２００９年。あの衝撃のお正月から、あっという間に時は過ぎ、もう3月になってしまいました。今、「千江の輪。最終話」を書いていることが、不思議な気がしてなりません。

わたしが感じたこの町の魅力を一文字で表すならば、「わ」になると思います。

「せっかく徳山に住んでいるんだから」と、たくさんの行事に参加させてくれた地区の人たちの人情あふれる輪。

わたしの両親とほぼ同じ年齢、名字も同じ中野政民さん。このご夫婦と共にしたお昼ご飯や、縁側で楽しんだお茶。温かい家族の和をもらいました。車の運転が苦手なわたしを、いろんな場所に連れて行ってくれた南さんご一家。兄弟のように仲の良いご家族で、わたしもその一員になったかのように、いろいろな話を聞いてもらいました。

お茶が好きだという理由で入会したティーサークル。このおじさまたちの輪。少々歳を取った紅一点のわたしでしたが、たくさんかわいがってもらいました。

ある日、自宅に一本の電話が。「鹿を捕ったけど食べる?」。また別の日には、「猪を捕ったけど食べる?」。今まで経験したことのない内容で、とても驚きました。そんなおちゃめな電話をくれる狩猟クラブの皆さん。少々お酒が入ると、お互いのことを称えつつも、ちょっぴり自分の自慢も入っちゃう。何でも言い合える仲間の輪が、男くさくて格好良かったです。

まだまだたくさんの「わ」があって、この場だけではとても紹介しきれません。

最初は小さな一つの輪だった「千江の輪」が、今では持ちきれないくらいたくさんの数になりました。抱えきれないほどの大きさになりました。本家本元おもちゃの「知恵の輪」は、一見外れそうになくても、ふとした瞬間に外れてしまいます。しかしこちらの「千江の輪」は、一度つながったら最後、二度と外れることはありません。

来町当初、「わたしは協力隊員なんだから」と、いろいろ考えてガチガチになっていました。でも皆さんとの間にできた輪のおかげで、しっかりと活動を続けることができました。

昨年の6月号から連載を開始した千江の輪。その6月号から広報のサブタイトルがstories（ストーリーズ）になりました（広報紙なのに!?）。この町の皆さん一人一人に、人生という名のストーリー（物語）があります。わたしは1年間、たくさんの人の物語に出演させてもらいました。それが誰かの代役なのか、はたまたスペシャルゲストなのかは分かりません。でもわたしにとっては、すべての出演がスペシャルであり、すべての物語がノンフィクションでした。

協力隊としての活動は3月で終了します。でもこれからも、中野千江一個人としての物語は続きます。この町の皆さんに出演してもらえる物語を、自分なりにつづっていきたいと思っています。

たくさんの人にお世話になりました。本当にありがとうございました。そしてもちろん、これからもよろしくお願いします!

中野千江

皆さんとの間にできた「輪」に支えられ、充実した活動を続けることができました。これからも、自分自身の「物語（ストーリー）」をつづっていきます。

わたしもこの町の「人の温かさ」が好き

花島安世さん（浜松市在住）
ちゃっきり娘養成講座受講生

わたしは３年間、ちゃっきり娘養成講座の受講生として、この町にお世話になりました。茶摘みや、田植え、地域の行事など、講座以外の日にも、たびたびこの町を訪れていたんですよ。ここの人たちは、気軽に「おいで」と声をかけてくれるきさくな人ばかり。いつも「人の温かさ」を感じていました。来る回数が増えるにつれ、親しみが増してきたのを覚えています。ちゃっきり娘養成講座は今年で卒業しますが、これからもちょくちょく、この町にお邪魔する予定です。皆さんこれからもよろしくお願いします。

千江さんは、一言で言えばとても頑張り屋さんです。講座の日は裏方として、みんなが楽しく取り組めるよう、常に気を配ってくれていました。お茶を用意してくれたり、懇親会の料理を手作りしてくれたり。みんなが気付かないところで頑張っていました。そういった心遣いが、とてもうれしかったんです。千江さんの頑張る姿が、今も印象に残っています。

たくさんの、本当にたくさんの人たちにお世話になりました。ありがとうございました。ほんの一部だけですが、ご紹介します

この町に広がった「千江の輪。」の数々

いつも仲良し中野さんご夫婦

鈴木狩猟クラブの皆さん

地域を愛する徳山区の皆さん

小さなお友達　ゆうかちゃん

お世話になった南さんご一家

お茶が大好きティーサークルの皆さん

農林業センターの３姉妹！？

ゆず園の美人３人衆

エピローグ
Epilogue

千江さんが残した1枚の写真

ここに1枚の写真がある。

千江さんが毎日のように通い、農作業に従事した農林業センター。そこで千江さんが撮影した「農作業の合間のひととき」の写真だ。そこには、はにかみながらカメラを見つめるたくさんの笑顔が写っていた。暑い夏の日も、寒い冬の日も、共に畑に向かった仲間たちだから自然に出る、信頼に満ちた笑顔だ。こんなところにも残っていた「千江の輪」。

千江さんは、この町に大きな大きな「人」の輪を広げてくれた。

広報担当の元にはしばしば、「わたしは千江さんに会ったことはないけれど、毎月の千江の輪コーナーを楽しみにしているんだよ」という声が届いた。千江さんの頑張る姿が、この町の人たちにしっかりと伝わっていた証だろう。

千江さんはある日、「この町には良いところがいっぱいあるんです」と言った。そして何より自慢できるのは「人のつながり」だと言い切った。

わたしたちが当たり前だと思っている「人付き合い」が、千江さんの目にはとても新鮮に映(うつ)っていたと言う。

1年間、この町の住人として暮らし、この町の人とかかわり続けた千江さん。慣れない田舎暮らしの中で、平日は農作業に汗を流し、休日には地域の勉強会にも出席していた。イベントでは裏方として活躍し、地区の伝統行事にも積極的に参加した。毎日が新鮮な驚きであり、挑戦の連続だった。

悩んだ時期もあったそうだが、持ち前の明るさで乗り切り、地域を元気付けようと笑顔を振りまいて頑張っていた。そして千江さんなりの「まちづくり」の形を見つけ、最後にこの町の子たちに示してくれた。

今度はこの町に生きるわたしたち自身が、わたしたちの手で、この町を元気付けていく番だ。

千江さんがいつか、この町に帰ってくるその日まで―。

農林業センターにて。農作業休憩中に千江さんが撮影した1枚。写真からは、和気あいあいとした雰囲気が伝わってくる。楽しそうな会話が今にも聞こえてきそうだ。千江さんのことを信頼しきっているからこそ生まれた1枚だろう。

千江さんが残したもの。それは頑張る姿、笑顔、人と人とをつなぐ「千江の輪」。

学校レポーターズコラム

「受験について思うこと」

川根高等学校３年
千澤一菜（かずな）

特進クラス1期生の仲間たちと

わたしは1年生のころ、進路についてあまり真剣に考えていなかった。昔から絵を描くことが好きだったので「デザイン系の専門学校か大学に行ければ」くらいにしか考えていなかった。

しかし、修学旅行でタイに行き、その考えは大きく変わった。自分の国とは違う文化に触れた経験によって、さまざまな文化・慣習について、もっと知りたいと思うようになったのである。これがきっかけで、わたしはいつしか国際系の学部がある大学に興味を持つようになっていた。

進路が明確になってからは、受験勉強を本格的に開始した。わたしは、面接と小論文で合否が決まる推薦試験を受けようと思っていた。だが、学力がふさわしくないまま県立大学の推薦試験を受けるのは、意味がないと考えていた。そこで、夏休み中は推薦試験の勉強はほとんどせず、朝から夕方まで図書館に行き、学校の授業のように予定をたてて勉強した。これにより、効率よく勉強することができたと思う。また、50分勉強するごとに10分間休憩を入れたことで、集中力を持続させることもできた。夏休み明けの模試では満足のいく結果を出せるようになり、推薦試験への自信もついたと思う。

試験当日の朝は、あまり緊張していなかった。しかし面接では、練習とは違って、わたしの答えを最後まで聞かないうちにどんどん次の質問をされてしまい、とてもあせった。自分の考えを伝えようと必死だったが、あまりに練習どおりにできなかったため「絶対に落ちた」と悲観的にもなった。このためインターネットによる合格発表で自分の番号を見つけたときは本当にうれしかった。

受験を通して、わたしは努力することだけでなく、それを継続させることの大切さを実感した。また、「受験は孤独なもの」とよくいわれるが、それは違うということも実感した。なぜなら、わたしが最後まで努力できた影には常に、合格のために試験直前までサポートしてくださった先生方や、弱気になったときに応援してくれた友達、さまざまな場面で支えてくれた親など、本当に多くの人の助けがあったからである。わたしは大学に行ってからも、この経験や感謝の心を忘れず、頑張っていきたい。

これから大学受験を経験する人は、今はとにかくさまざまな経験をすることが大切だと思う。わたしが高校の修学旅行で進路のきっかけを見つけたように、ささいな事が進路決定のきっかけになるかもしれないからである。

これから4年かけて、じっくりと自分がやりたいことを見つけていきたい。わたしは、大学では多くのことに挑戦し、大学生活を充実させていきたいと思っている。

川根本町の人口　平成21年２月１日現在

世帯数	3,082 世帯（－９）【45】	出　生	４ 人【０】
総人口	8,798 人（－29）【68】	死　亡	16 人【０】
男　性	4,304 人（－15）【15】	転　入	６ 人【０】
女　性	4,494 人（－17）【53】	転　出	23 人【４】

※（　）内は前月比、【　】内は外国人数、右欄は今月中の異動
※外国人の数を含む

今月の納期　本庁税務課　☎（56）2223

●国民健康保険税　第12期分
●水道使用料　第６期分
納期限は３月31日です。口座振替の人は３月31日に引き落とされますので、残高の確認をお願いします。

広報かわねほんちょうではお便りを募集しています。おハガキ、ファクスなど気軽にお寄せください。（みんなの広場ページをご覧ください）

発行：川根本町役場　編集：企画環境課　住所：〒428－0313　静岡県榛原郡川根本町上長尾627　☎0547（56）2221　広報かわねほんちょうは、古紙配合率30％の再生紙を使用しています。